

学科名	建築・デザイン学科						
科目名	鋼構造及び演習						
科目区分	専門科目	単位数	3単位	開講時期	2年時後期		
必修・選択の別	必修科目(建築工学コース)／必修科目(建築コース)／—(デザインコース)						
担当者	奥野 賢二						
授業の到達目標 (シラバスから)	<ul style="list-style-type: none"> ・鋼の応力度－ひずみ度関係を通じて、鋼の降伏や強度を理解し基本的な許容応力度設計ができる。 ・想定した荷重により、その設計方針や安全性を評価した計算ができる。 ・座屈現象の概念から、基本的な圧縮材の座屈荷重の計算ができる。 ・接合部や部材の個別設計ができる。 						
日程と内容	<p>9月18日 第1回：ガイダンス 9月25日 第2回：鋼材の性質 10月2日 第3回：引張力を受ける部材の設計 10月9日 第4回：圧縮力を受ける部材の設計－1 10月16日 第5回：圧縮力を受ける部材の設計－2 10月23日 第6回：圧縮力を受ける部材の設計－3 10月30日 第7回：曲げを受ける部材の設計－1 11月6日 第8回：曲げを受ける部材の設計－2 11月13日 第9回：曲げを受ける部材の設計－3 11月20日 第10回：曲げと軸力を受ける部材の設計－1 11月27日 第11回：曲げと軸力を受ける部材の設計－2 12月4日 第12回：曲げ材の設計 12月11日 第13回：圧縮材の設計 12月18日 第14回：接合部及び継手 1月15日 第15回：まとめ 1月22日 第16回：定期試験(120分)</p> <p>注：試験範囲は第1回から前回までの授業総てとする。</p>						
成績評価基準	定期試験	60%	実技				
	臨時試験		部外評価				
	報告書・レポート		プレゼンテーション				
	課題		計	100%			
	演習	40%					
授業到達目標の達成度	圧縮力及び軸方向力を受ける部材の断面設計方法については概ね達成できたと思われる。						
反省点	<p>基礎的な力学に対する理解が不足していると思われる、特に力の釣合い条件及び力と変形に関する説明を行う必要がある。</p> <p>長期及び短期荷重に対する理解を徹底する必要がある。</p>						
来年度の計画	来年度も復習を兼ねて演習問題の解説を行う事が必要である。特に、鋼構造の基礎となる座屈に関する理解を深めたいと思っている。						
授業評価アンケートに対するコメント	毎年のものであるが授業内容が難しいとの意見があるが、建築構造に関して最低条件の知識を習得するための授業を行っている。						
履修登録者数	101名	定期試験 受験者数	86名	合格者数	56名	合格率	65%